

輸出事業計画

※申請者名：アグベル株式会社、品目：ぶどう

1. 輸出における現状と課題

現状

- 山梨県は果樹栽培に適した気候・風土で質の高い農産物を生産しており、ぶどうの生産量は日本一。
- 2023年のぶどう生産量は41,700t、栽培面積は3,790haに減少傾向
- 2022年度の実績：自社選果場でのQCチームによる品質管理体制確立、山梨県・茨城県での輸出体制構築

課題

- 産地の高齢化に伴う労働力不足、耕作放棄地の増加
- 台湾向け防除体系に対応した圃場整備・農薬管理の必要性
- 選別作業の属人化と作業効率化の必要性
- 輸出量増加に対応する物流体制の整備
- 新規市場（カナダ、マレーシア）、新規チャネル（台湾、タイ）での販路開拓

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

- 自社農場の拡大（8ha→10ha）、契約農家の拡大（50名→100名）
- 茨城県での台湾向け防除体系対応圃場の整備
- 山梨大学と連携したAI選別システムの導入
- グローバルぶどう輸出産地協議会による産地間連携
- 根域制限栽培の導入

【流通】

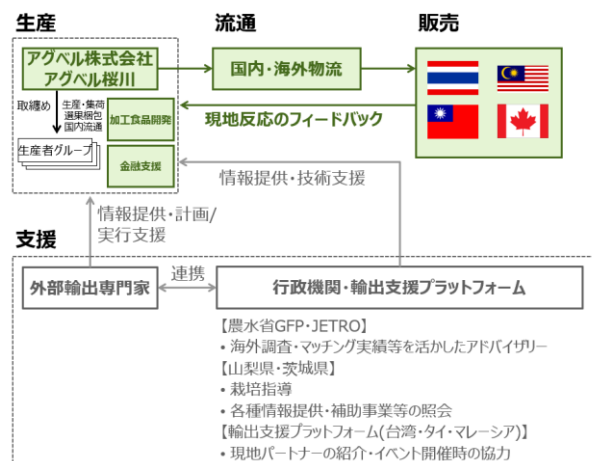
- 新規選果場・保冷施設の設置
- フィルムパッカー・梱包機導入による効率化
- 成田空港・羽田空港からの直接輸出体制構築

【販売】

- 台湾：高級スーパー、デパートでの販路拡大
- カナダ：アジア系スーパーでの展開
- マレーシア：現地系スーパー等での販路開拓
- タイ：直接輸出体制の構築をし、現地系小売スーパーに展開

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

アグベル社を中心として、グローバルぶどう輸出産地協議会を組織し、物流業者や現地販売先と連携しながら、輸送フィードバックや販売状況を速やかに連携することで、改善を踏まえた最適な輸送ルート・品質・コストで出荷翌日には現地に流通させることが可能となっている。その他、金融機関や行政機関等とも連携しながら、輸出に関する情報を有益に活用しながら輸出を実行。



グローバルぶどう輸出産地協議会
(中核機関：アグベル株式会社)の体制とPDCA実施の概念図

4. 輸出目標額

ぶどう	現状（2021年度）	目標（2028年度）
輸出額	78,000千円	200,000千円
輸出量	48t	200t
輸出先国	香港、シンガポール、タイ、台湾	香港、シンガポール、タイ、カナダ、台湾、マレーシア、ドバイ